

第5章

土地の選び方と アウトライン設計

1枚目の基本設計図で、住宅の美しい「アウトライン」を描くことができれば、家づくりは成功します。アウトラインが美しく描けるかどうかは、「土地」によって決まります。

家づくりで最初に決断を迫られるのは、土地を選ぶ時でしょう。「風水の良い土地」「風水の悪い土地」は、確かに存在します。しかし、風水の良い土地であっても「あなたと相性が合うかどうか」は別の問題です。家を建てる時は「風水が良く、あなたと相性の良い土地」を選ぶことがポイントです。

私が土地の風水を見る時は、その土地でどんな家が達つか、住宅のアウトラインを設計して判断しています。一度プランを策定し、それが「機能するのか、しないのか」を見てからでないと、土地の診断はできません。誰にでも共通する、風水的な土地の良し悪しの見方や考え方については、参考文献リストに記載の他の風水書をお読み下さい。本書では、「住む人にカスタマイズした土地の選び方」を解説します。

「土地の選び方」と「アウトライン設計」を同じ章にしているのは、作業プロセスがほとんど同じだからです。風水的に美しいアウトライン設計をするための知識と技術があれば、土地の購入判断も自ずとできます。本章では、琉球風水で建築アウトラインを設計する時の考え方と手法を解説します。アウトライン設計の方法を解説後「その結果を踏まえて土地の購入判断をどのようにすればよいのか」をお伝えします。

Land Selection



#321058123

ドイツ モーゼル川

Philosophy

アウトライン設計の考え方

建築の方向性を決める基準は？

Priority 1 氣の流れの鑑定



ここから「建築設計の風水」について、1) アウトライン設計、2) 間取り設計、3) インテリア設計の3ステップでお伝えします。アウトライン設計とは、住宅の向きと配置、そして、輪郭となる形を決めることです。

第1章で、氣の流れの鑑定には「外家轡頭」と「内科轡頭」の2種類があるとお話しました。アウトライン設計は「外家轡頭」です。琉球風水は「自然」「人」「建築」の三者が調和する世界を目指します。内側の住み心地の良さに配慮しつつも、外側の環境と建築の調和に比重を高くおくこと。これが、アウトライン設計のポイントです。

Priority 2 陰陽方位鑑定



周辺環境の氣に調和させる

建築の方向性が決まるアウトライン設計は、プロジェクトの成功の8割が決まります。氣の流れ、陰陽方位、個別運勢方位の3種類の鑑定法を使い、アウトラインを設計します。

氣の流れの鑑定から「住宅の背中」が決まると、家の「向き」が決まります。向きが決まると、陰陽方位鑑定のパブリック空間とプライベート空間の「ゾーニング」が決まり、アウトラインが出ます。向きとゾーニングが決まると、玄関や寝室が配置される候補の方位がわかります。ここで、住む人の「吉方位」に重要な空間の配置ができないか検証します。

鑑定法を組合わせて使うことで、それぞれの鑑定法が最も得意する部分だけを抽出することができます。アウトラインの風水設計のポイントは、鑑定法の優先順位、使う順番、判断内容を間違えないこと。多くの人がやってしまうのは、個別運勢方位で玄関や寝室の位置を先に決めてしまい、氣の流れを無視してしまうことです。方位鑑定は氣の流れを崩さないことを前提に使います。

Priority 3 個別運勢方位鑑定

個人レベルの吉方位を取り入れる



Lily's Eyes 玄関の変更で間取りは全て変わる

風水師の仕事をしていると、一番多いご相談の一つに「玄関の風水を見て欲しい」があります。

私の場合、「玄関だけ見て欲しい」というお客様にはご対応しておりません。理由は、玄関の位置が変わると、間取りが全て変わるからです。玄関の配置は、間取り設計の一番最初に行う全体のアウトライン設計で候補が決まります。

新築住宅の設計段階の施主様から、部屋の配置が変わることが予想されるアドバイスを求められる場合、私は図面を拝見する前に、必ずこの質問をします。「設計図面を、ゼロから描き直す覚悟はございますか？」

琉球風水では間取り設計に八方位の鑑定を採用していません。理由は、八方位の鑑定を取り入れ、優先順位を一番にして新築住宅を設計すると、住み心地の良い家が建たないからです。

ある新築住宅の設計時に「氣の流れからみると玄関が南西になりそう」とイメージした土地がありました。現地調査の時に、玄関になりそうな位置に立ち、建築家に「玄関はこの辺りですかね」と話しかけると「玄関は南でなくてもいいんですか？」と聞き返されました。

「この土地で南に玄関を作ったら、不便で住み心地が悪いですね」と伝えると「よかった。以前、ここと似た様な土地で、南に玄関を持つてくるとどう考えても住み心地が悪くなってしまう状況だったのですが、結局施主様のご要望で、玄関は南になりました」とのお話でした。

残念ながら、方位という「部分」だけでみて、「全体」の氣の流れを考えない間取り設計は、確実に失敗します。部分的な知識を寄せ集め、鑑定法の使い方を心得ないまま家づくりをするくらいなら、風水を気にしない方が良いでしょう。

施主様の要望通りに家が建ちます。建築は出来てから変更できません。風水を取り入れるなら、自分の身を守るために必要な知識を身につけてから、家づくりをスタートしましょう。

宇宙の本質

全体を見ず、部分だけで簡単に答えを求める生き方は、結果的に大きな損失を伴う。

Design Flow

アウトライン設計の手順



アウトライン描く3STEP

ここでは、施主でも建築士でもなく、風水師がどのように建築アウトラインの設計をしているのか、そのプロセスを解説します。建築アウトライン設計は、1) 事前調査、2) 現地調査、3) アウトラインの具体化の3ステップで行います。

現地調査へ行く前に、事前調査で概要をつかみます。グーグルアースを使い、バードビューで土地の形と周辺環境をチェックします。全体像を頭に入れてから、最初の風水鑑定図面を作成し、現地調査へ向かいます。

現地調査では、光、風、水の自然の気の流れと、周辺の建物など人工的に作られた環境の形か

ら生じる気の流れを見ます。続いて、その土地で最も心地良い場所であるゴールデンゾーンを探します。そこを起点に建築アウトラインをイメージします。最後に、土地周辺を1時間程度歩いて、「街全体の中でその土地がどうあるのか」を確認します。

「施主様の要望」と「現地の状況」を十分にインプットしてから、土地の上に家となる「箱」をおきます。これは、家の向きと、プライベート空間、及び、パブリック空間のゾーニングがわかるレベルのものです。この箱の上に羅盤をのせて、アウトライン設計の風水を確認します。

Step1 事前準備



Step2 現地調査



Step3 アウトラインの具体化



.....

- 1 施主へのヒアリング
- 2 バードビュー調査
- 3 敷地の風水鑑定図面作成

.....

- 1 自然の気の調査
- 2 人工的な気の調査
- 3 ゴールデンゾーンの調査
- 4 アウトライン考察
- 5 集落散策調査

.....

- 1 敷地の鑑定図面の確認
- 2 箱を敷地図面に置く
- 3 風水鑑定図面で確認する

Preparation

1 事前準備

まず、宇宙から土地を見てみよう

Step

1 施主様へのヒアリング

2 バードビュー調査



その土地を中心に、上空から全体を俯瞰して、土地をクロースアップし、全体の雰囲気を感じとります

3 土地の方位鑑定図面の作成

アウトライン設計は、その土地の使い方と土地の性質を合わせるのがポイントです。従来型の建築設計で上手くプランが描けず、風水師の元へ相談へ来る方の理由はだいたい決まっています。それは、家を建てる時、物質的な「建物」だけを見て、「人」と「環境」を見ていないことです。

事前準備では、施主様から大まかなご要望と、図面、住所、ご家族の生年月日を聞いておきます。そして、バードビュー調査と土地の風水鑑定図面を作成することで、土地の性質の概要をつかんでいきます。施主様の要望と土地の性質の双方を、じっくり観察することからスタートします。

最速で判断するために

事前調査では、周辺環境、土地の形、方位を、ざっくりと、全方向からリサーチします。バードビュー調査は、その土地を中心に上空から俯瞰し、全体の雰囲気を感じとります。その土地が、周辺の山、川、海の自然や、建物に対し、どのような配置になっているか確認します。すると、「自然の氣の流れ」のある程度予測できます。

次に、土地の形をみます。きれいな四角形の土地は、氣が安定して理想的です。三角形は損失を表し、財が漏れていく形。いびつな形の土地は、土地の有効活用がしにくいです。

続いて、土地の図面に羅盤を当て「陰陽方位」と「個別方運勢方位」の風水鑑定図面を作ります。「土地のどのあたりがどの方位に来るか」確認することで、太陽光の流れをイメージできます。あらかじめ施主様の吉方位を把握しておくと、玄関や寝室の位置の候補をイメージできます。事前準備をしておくと、現地へ行った時に、現場で感じる氣の流れと方位鑑定の結果を組み合わせ、アウトラインをイメージできます。



#366505775

トルコ マルマリス

Lily's Eyes 事前準備の予測的中率は50%

現地調査へ行く前の事準備には、丸1〜2日かかります。しかし、それなりの準備をしていくにも関わらず、予測が的中する確率は半分程度。やはり、現場の「氣」は、実際に行って、身体感覚全てで感じてみないとわからないのです。

「新築で家を建てる予定なのですが、提案された図面が気に入りません。風水を見ていただけないでしょうか」このようなご相談には何度も対応してきました。そういった図面を拝見して、ひと目でわかるのは、生活動線の悪さです。では、図面だけ見て生活動線の悪さを改善できるかというと、まず難しケースが多いです。なぜなら、生活動線の悪さの原因が、立地条件に影響されていることが多いからです。

建設をご予定のご自宅の間取り図が、お気に召さないとのことでご相談を受けた時のことです。確かに、図面を見ると、住み心地の良さそうな間取りではありません。図面を見るだけで生活動線が悪いという「状況」はわかります。しかし、「原因」まではわかりません。「一体なぜこのような提案をしたのだろう」と建築士の意図を理解するため現場へ行きました。すると、間取り設計に難

航する典型的なパターンの土地でした。四神の玄武と朱雀が真逆になっています。琉球風水では、四神相応の地を理想的な立地としてご紹介しています。しかし、背中を守るはずの玄武が目の前に来て、前方の開けた空間が土地の背中にきてしまう立地でした。外側の立地条件が悪いと設計の難易度が上がります。周辺環境との不調和が生活動線の悪さの原因でしたので、アウトライン設計からやりなりました。

事前調査で四神の状況をイメージしても、現場にいくと、予想とは違う風景が当たり前現れます。しかし、事前準備をしていることで、現場での判断に確信を持つことができます。事前準備は、思考レベルの平面的な情報収集。現地調査は、感覚レベルの立体的な情報収集。2つをセットにして情報収集を行うことがポイントです。

宇宙の本質

「左脳と右脳」「思考と感覚」「平面と立体」
相対するものをバランスよく使え

Field Survey

2-1 現地調査 自然の氣

自然の良い氣で、無意識が喜ぶ

Check Point

1 光

2 風

3 水



現地調査では、あちこち歩き回り、光や風をみながら、五感で感じる情報に対し、神経を研ぎ澄ませています。

磁場の狂いは、感覚ではわからないので、様々な場所に立って見て、方位磁石を見てみましょう。事前準備で把握していた方位と違ったり、立つ場所によってコンパスの向きが大きく違ったり、磁石がグルグル回転するような場所は、磁場が狂っている可能性が高いです。睡眠の質や集中力に影響するので、このような土地は避けます。

現地調査では、その「土地」と、周辺環境の「自然の氣」を調和させることができるよう、「光」「風」「水」の、3つの氣の流れをみます。

光と風は、方角とも関連しています。例えば、朝日には、生命を活性化するエネルギーが含まれており、夏の南風は、暖かくて心地よい。一方、西日が強く入ると眩しく、冬の北風は身体に厳しいと、無意識レベルで、感じているでしょう。

「風水では、南が吉、北が凶」と、機械的に判断するのではなく、本質的な意味を理解して、自然の氣の性質を、暮らしと調和させることができれば、風水の良い家が、でき上がります。

「氣」は流れと質に注目

初めての土地に入る時は、まず、土地の神様にご挨拶し、そして、太陽に挨拶します。方位磁石を見ながら、上空の太陽の軌道を確認します。

誰が、どの時間帯に、どこで過ごすのか。その時、太陽の光を、どう感じていたのか。その空間で過ごす人の気持ちと、光のエネルギーの性質の相性を考えます。

風の流れは、できるだけ、心地よい自然の南風を取り入れ、厳しい北風から守られた暮らしを営むには、どのようにすればいいのかを考えます。

その土地に入ってくる風が、どのような空間を抜けてその家に入ってくるのか、空気の質の良し悪しも、みていきます。

水の氣は、事前調査で情報を集め、現地で感じる氣と合わせて、総合的に判断します。周辺の川や海、湿気、沼地や池だった歴史、雨水が流れる土地の高低差などが、水の氣の調査対象です。

川、海などの水の位置は、風水の吉凶と大きく関わります、詳しく知りたい方は、風水の専門書を読むことをお勧めします。



沖縄那覇市 識名園

Lily's Eyes 質の高い南風は幸福をもたらす氣

自然の氣の流れをみることは、土地を購入するか、しないかの決断にも、大きく影響します。氣の判断は、量と質の両面からみていきます。

例えば、沖縄の首里には、「識名園」という王府の別邸だった建物があります。この建築には、風水の記録は全く残っていないのですが、風水師がみると、入念に風水で設計されたことを感じる場所です。

建物は、北を背に、南を向き、南には大きな池があります。これは、風水では「満堂水」と呼ばれる、最高に良い水で、財運をもたらす水です。

ある年の真夏、識名園に訪れ、来賓の冊封使をもてなした表座に立つと、なんとも心地よい風に包まれました。南風が、建物前方にある池の、水の上を走って入ってくることで、水蒸氣の気化熱によって、風の温度が涼しくなるのです。

この原理は、王朝時代に、一般庶民の民家にも、使われました。琉球民家の敷地は、フクギに囲まれています。南風は、フクギの木陰をすり抜け、気化熱で冷やされて、表座に入ってきます。

南風なら、何でも心地よいが良いというわけではなく、水の上を走って入ってくるから、木陰を

すり抜けて入ってくるから、心地よいのです。

夏の暑さが厳しい琉球で、電気もガスもない時代、自然と調和することで、快適な暮らしを営んできた歴史を、伺い知ることができますね。

一方で、幸いにも、購入を検討している土地が、南を向いていたとしましょう。しかし、南側の前面道路が、交通量の多い道路であれば、南に大きな開口部をとっても、排気ガスを含んだ空気が、家の中に運ばれてくるわけです。

南向きで、日当たりが良くても、南風の質が低い場合、その土地の使い方によっては、土地の購入を見送った方が良いケースもあります。

自然の氣をみる時は、量と質の両面をみて、その土地に建てる建物の使い方と、相性があっているかどうかを、確認しましょう。

宇宙の本質

琉球風水は、自然と調和する科学。古より伝わる叡智は、最先端の科学に通ずる。

Field Survey

2-2 現地調査 人工的な氣

目に見えない氣の出入口はどこ？

Check Point

1 周辺の人為的な環境

2 日当たり

3 視線や風の抜け

4 隣家の開口部の位置



フランス パリ

新しく住宅が建つ時に、ドアや窓になりそうな位置の周辺の建物の様子は、しっかりチェックして、写真を撮っておきましょう。

周辺に、どんな建物が、どんな風に立っているのか。建物の配置や向き、窓やドアなどの開口部を決める時の、重要なポイントになります。

間取り設計で、玄関やトイレの風水を良くしたいと考える時、方位だけで風水をみている方が、ほとんどだと思います。

設計図には、方位が入っているので、風水的な方位や、日当たりなどのイメージができます。しかし、方位だけで判断するのが、なぜ危険かというと、周辺の建物を見ていないからです。

人工的な建物により、自然の氣も影響を受けます。両方の氣を、複合的に見ていきます。

向きと配置を決める情報

前面道路の状況や、住宅、店舗、公園など、どんなものに囲まれ、どんな高さの建物が、どのくらいの距離感で建っているのか。人為的に作られたものによる、環境構成をチェックします。

隣家の高さや距離感は、日当たりの良し悪し、視界や風の抜けに、大きく影響を与えます。

例えば、公園や駐車場など、開けた環境があれば、家の向きを決める時に、優先的に取り入れる情報です。「明堂」という、財運を留めるスペースにあたり、これは、方角で決まるのではなく、家の前方にあることが、望ましいからです。

周辺の建物は、玄関やドアなどの開口部の位置も、しっかりチェックします。開口部は、氣の出入口なので、建物に出入りする氣が、近くの建物同士でぶつかり合わないよう、後から建築するほうが、予めずらして、設計する必要があります。

家の配置や向きは、周辺環境で決まります。南や東など、方角の情報だけで、間取りを決めるのは危険です。周辺環境の氣の流れを配慮した上で、方位の情報も取り入れ、複合的に判断します。



フランス ブリュターニュ

Lily's Eyes 氣の流れをみる紳士淑女のマナー

沖縄では、風水が浸透していることもあると思いますが、お向かいの家の玄関と、向かい合わせに玄関を作って家を建ててしまったら、クレームを言われたという話を、聞いたこともあります。

扉を開けると、互いの中が、見えてしまう可能性があり、プライバシーが守られていないことで、ストレスを感じますよね。

以前、台湾に行った時のことです。台湾ですし、四つ星ホテルでしたから、風水も良いのではないかと、少し期待していたのですが、案内された部屋の入口ドアが、なんと、エレベーターの扉と、向かい合わせでした。

あまりに心地悪いので、部屋を変えてもらったのですが、その階の半分以上の部屋は、入口が向かい合わせ。フロアを歩き、入口の位置がまともな部屋を確認してメモをとり、部屋番号を指定して、部屋を変えてもらったことがあります。

また、私が子供の頃に住んでいた家では、掃除の時以外、自分の部屋の窓やカーテンを開けることは、ありませんでした。隣の家との距離が近かった上に、窓が向かい合わせだったからです。

これらのことは、「氣の流れ」を意識しない設

計では、普通に起きてしまうことです。建築基準法をクリアしていても、心地よいとは限りません。施主様ご自身が、知識をもって家づくりに望むことで、より快適な家が手に入ります。

土地の現地調査の時点では、大きな視点で、家の向きや、玄関の配置をイメージするために、周辺環境をみてみましょう。

バックヤードのプライベート空間が、隣家の窓と氣がぶつかり合う場合には、窓の開け方や、ガラスの選び方、ウィンドウトリートメントの種類で、対処できることもあります。

後から建物を建てるほうが、玄関や窓をずらすのが、マナーです。その後のご近所付き合いにも影響しますので、現地でしっかりチェックして下さいね。

宇宙の本質

専門家に100%依存しない生き方を。知識がないから、良し悪しの判断ができない。

Field Survey

2-3 現地調査 ゴールデンゾーン

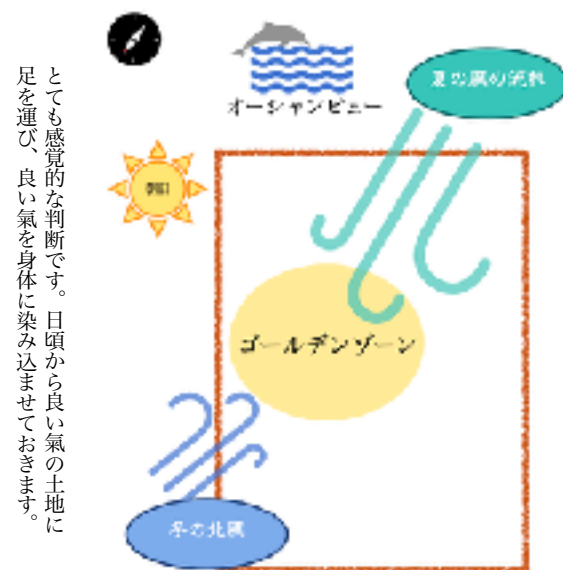
黄金地帯のある土地を買いなさい

Step

1 敷地を歩き回る

2 光の抜けるポイントを探す

3 光と風を受ける向き



間取りイメージがわく

現地調査の一番の目的は、ゴールデンゾーンを探すことです。これは、私が現地調査を繰り返すことで、見つけたものですが、建築士の方々でも、このポイントを起点に、設計されている方がいらっしやいます。

敷地の中を歩き回り、「ここに立って、こっちを向くと、とても心地よい」というポイントを見つめます。そこは、光と風の抜ける場所です。

土地の風水診断は、ゴールデンゾーンがあるかないか。そして、ゴールデンゾーンから、設計プランを、無理なく展開できるかどうか、キーになります。

光と風の絶妙なハーモニー

ゴールデンゾーンは、事前調査の段階で、「この辺じゃないかな」と予測を立てていきますが、半分くらい当たりません。図面やGoogle Earthでは、判断できないところ。

広さにもよりますが、大体1時間ぐらいかけて、敷地を歩き回ります。初めは、敷地の境界を歩き、どんどん内側に入っていきます。

ポイントは光と風です。まず、光の抜ける場所です。良い光が当たる場所に立ってみて、上空や周辺を眺め、光が抜けるポイントを見極めます。

そして、向きです。その光の抜ける場所で、どちらを向くと、光と風を心地よく受け取れるのか。光と風の絶妙なハーモニーによって、良いエネルギーを、受け止めることができる場所を見つけます。

一言で言うと、「ここに立って、ここを向くと、最高に心地いいと感じるポイント」。これが、琉球風水のゴールデンゾーンです。現地調査でしか、見つけることができません。このゴールデンゾーンを起点に、設計プランを展開します。



Lily's Eyes 自然との調和でつながる心

ゴールデンゾーンが、土地選びの決定的なポイントになったエピソードがあります。

「2つの土地の、どちらかを購入したい」とのご相談で、敷地図面を見てみると、一つは、前面道路に面した、長方形のきれいな形。もう一つは、いわゆる旗竿地で、形も少しいびつでした。

現地へ行き、まず、長方形の土地を見てみると、南北に長い土地で、北側に前面道路、西側に細い私道がありました。東側と南側には、3階建ての建物が、かなり近い位置にありました。

光の抜けが悪い、難しい土地です。土地の形はきれいでも、ゴールデンゾーンがなく、間取りのイメージが、浮かびませんでした。

もう一つの土地は、旗竿地で、形も少しいびつ。しかし、ゴールデンゾーンが見つかり、琉球風水設計の間取りイメージが、浮かびました。

図面だけの判断であれば、「長方形の土地の方が良い」という判断になったと思いますが、現地調査で、判断がくつがえる典型的な例でした。

無事、契約が決まり、次に、設計を担当する建築士さんと、この土地で、顔合わせをしました。敷地調査の様子を、ふと拝見すると、ゴールデ

ンゾーンに立ち、上空を眺めていました。

建築士さんの側に行き、「ここ、すごく心地いいですね」と、伝えると「ええ、あそこから光が抜けるし、風もこっちから吹いてくるし、ここすごくいい場所ですね。」とおっしゃいました。「この建築士さんに、出会えてよかった。」と、心から思った瞬間でした。

さて、ゴールデンゾーンのなかった長方形の土地は、その後、すぐに土地は売れたそうですが、2年経っても、家が建つ様子がありません。

自然との調和を軸に、ゴールデンゾーンから間取りを展開することを、風水師、建築士、施主様の三者で共有することは、とても大事です。同じ方向を向き、軸を共有しているので、間取りもスムーズに、決まっていきました。

宇宙の本質

思想の軸を同じくするパートナーとの出会いは、プロジェクトを成功に導く。

Field Survey

2-4 現地調査 アウトライン考察

環境と暮らしで向きと配置決まる

Thinking Point

1 ゴールデンゾーン

2 四神相応

3 陰陽方位

4 個別の運勢方位

現地調査の段階で、建物の向きと配置まで、ある程度イメージします。風水の様々な考え方を、トータルに、バランスよく取り入れていくことが、ポイントになります。

風水の基本的理論や哲学の知識を、習得していること。事前調査で、大局的に、土地情報の概略をつかんでおくこと。そして、現地で自然の氣と人工的な氣の情報を感覚レベルで得ていることで、建物の向きと配置を、イメージできます。

風水の方位鑑定の種類によっては、建物の背中と向きの方位が、その建物の運勢を鑑定する時の、最も重要な情報となります。

陰と陽でゾーニング

建物の向きと配置は、ゴールデンゾーンから、展開していきます。四角形や、いびつな形など、土地の形もいろいろあると思いますが、ゴールデンゾーンで、自分がどちらを向いていたのかが、建物の向きを決める、大きなヒントになります。

ゴールデンゾーンには、その建物のパブリック空間の、メインスペースを配置します。住宅であればLDあることが多く、店舗であれば、お客様に、長時間過ごしていただきたい場所です。

自然の氣と人工的な氣の流れを、四神相応の考え方に当てはめると、向きと配置のイメージが、さらに具体的に、浮かび上がってきます。

陰陽方位をすでに把握しているので、その情報から、プライベート空間とパブリック空間のゾーニングをイメージします。

ここまでイメージできてから、個別の運勢方位に、目を向けます。施主様は、無意識レベルで、ご自身の運勢方位を向くことを、好んでいることがよくあります。現地で、どちらを向くと心地よいか、ヒアリングしておきましょう。

現地調査の山場です。方位の情報を頭に入れた状態で、現地の氣の流れから、箱をイメージします。



Lily's Eyes 答えは「施主様」がもっている

向きや配置は、土地が狭い場合、買った時点で決まってしまうこともあります。200坪、300坪の広い土地では、向きや配置のバリエーションが多いだけで、設計する側も混乱することが、よくあります。

ゴールデンゾーンを把握していれば、おのずと快適な向きが出てきます。現地では、いくつかの向きのパターンを、イメージしておきます。

琉球風水では、氣の流れを優先し、方位鑑定の優先順位は低いとお話してきていますが、方位を無視しているという意味ではありません。

土地が広い場合、ゴールデンゾーンが複数あるケースがあります。どちらを中心に展開するかは、施主様の要望をお聞きします。

それは、ご自身の運勢的に良い方位を、無意識レベルで認識し、その方位を生かして、家を選んでる人達が、確実に存在するからです。

事前調査で行った、個別の運勢方位の情報を、施主様にお話した後、施主様から、こんなお話がありました。

「これまで10回以上、引越しをしてきたのですが、振り返ってみると、住んできた家は、西側に

西側に向いてる家ばかり。東向きの家には、長く住むことが、できませんでした。」

風水師は、できるだけ、自然の氣の心地よさを優先したいという思いがあり、南や東に、家を向ることを、第一に考えます。

この時、私は、南東のゴールデンゾーンをうまく生かせずに、悩んでいたのですが、家を西向きにすると、スムーズに間取りが浮かびました。

その施主様は、無意識レベルで、西向きで家が立つ土地を選び、西向きの家が建つたつように、リクエストをされていたんです。

個別の運勢方位は、無視できないことを実感したエピソードです。事前に、個別の運勢方位の図面作っておく事は、とても大事です。知っているか、いないかで、判断が大きく変わります。

宇宙の本質

方位は目には見えないが、自分の吉方位は、無意識レベルでわかっている。

Field Survey

2-5 現地調査 周辺散策調査

周辺の自然と人に心を傾ける

Point

1 家の向き

2 家のデザイン

3 築年数

自分の住む街を一望できる高台があれば、必ず足を運んで、エリアの全景を、俯瞰してみましよう。



ギリシャ ミコノス島

なぜ、このような街づくりになったのかを考える

住み心地の良い家を作るために、大切なこと。それは、自然の流れに逆らわないように、家を建てることです。

その土地の自然を見ながら、そこに調和させるように、家を建てようという想いは、地域の皆さんの心と調和して暮らすことに、つながります。

家を建てる人の想いが、形となったものが、その人の家です。目に見える形とは、思考が作り出しています。

自然に対して畏敬の念を抱き、周りに人の暮らし方に対して、心を傾けているかどうかで、あなたの家は、全く違ったものになります。

氣は細胞に溶け込む

現地調査の後、施主様と一緒に、周辺のエリアを1時間くらいかけて歩きます。施主様の、この土地に対する想い、家に対する想いが、歩きながらだと、ナチュラルな感情として、出てきます。

周辺の家は、立地条件が近いので、同じような条件で、家をどちらに向け、どんなデザインで、築年数はどの位の家が多いか、見ていきます。

担当してる土地だけをみている時には、みえないことも、周辺環境をみると、この地域で、多くの人が、自然にしていることが、見えてきます。

沖縄の場合、集落の構造がパターン化されているので、型に当てはめてみて、集落全体の視点から、その土地の位置づけを、見ていきます。

都心では、集落の面影が残っていないことのほうが、多いでしょう。そういう場所でも、歩いてみないと分からない、そこに流れる空気を、感じてみるのが大切です。

その場の空気を吸い、体感し、自分の細胞に、溶け込ませます。観察と分析により、なぜそのような街になったのか、理由がわかってきます。



クロアチア ヴイス島

Lily's Eyes 風水術も「守破離」の精神で

私が沖縄で、初めて暮らした離島の集落は、典型的な風水集落でした。北側の集落の背後には山、前方の南側に海。左右の山は、集落を抱き護っていました。

学術文献にも、この型が、琉球の集落のモデルとされており、琉球の集落はみんなこうである、私は思っていました。

ある時、沖縄で集落調査に行き、衝撃的な出会いがありました。山があり、集落があって、前方に海があるというのは、典型的な集落の型です。

しかし、全ての家が山側を向き、海に背中を向けているという集落をみたのは、初めてでした。

私は、コンパスを取り出し、確認すると、その集落は、山が南にあり、海が北にありました。海から入ってくる厳しい北風に、家の背中を向け、前方の山側から、太陽の光をとっていたのです。

これは、沖縄ならではのと思いました。沖縄には、標高数百メートルの低山しかないので、山側に家を向けても、光が入るからです。

当時の風水師は、悩んだと思いました。そして、悩んだ末に、風水理論から離れ、風水の本質「自然との調和」を、最優先したのでしょうか。

教科書通りに、正解不正解を求めたのではなく、中国で風水の本質を学び、中国と沖縄という全く違う気候の中で、風水の良い、つまり、自然と調和する街づくりに、果敢に挑戦してきた人達であることを、実感しました。

私は、集落調査にいくと、必ず、風水師がここに必ず立ったであろうという場所を探し、そこから、集落を眺めてみます。

自分が300年前の琉球風水師として、王命を受け、この集落を設計するならば、どのようなプランを立てるだろうか。当時の風水師の「思考」に、アクセスし、プランを考えてみます。

風水術とは、ノウハウの暗記ではなく、風水的な考え方を、いかなる現場でも、応用できる力を身につけることで、磨かれていくものです。

宇宙の本質

基本の型と、本質を心得ているからこそ、型を破り、離れて、最適な判断ができる。

Embodiment

3 アウトラインの具体化

思考に思考を重ねると降りてくる

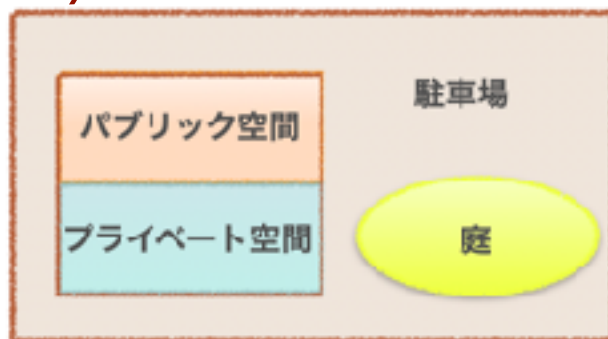
Step 1 敷地鑑定図面の確認

- 1 陰陽方位鑑定（事前）
- 2 個別運勢方位鑑定（事前）
- 3 氣の流れの鑑定（現地）

住宅設計において最も重要で、本書の中で最も難易度が高いスキルが、「アウトラインの具体化」です。しかし、作業自体はシンプル。現地調査からアウトラインの具体化まで2日で行います。風水の良い設計プランが描けるかどうかは、インプットの質と量ですすでに決まっています。

アウトライン設計に必要なインプットは3つ。1) ベースとなる風水理論、2) 施主様のご要望、3) 土地の周辺環境の情報です。質の高い情報を豊富に入手するのポイントです。現地で、周辺の建物の形など、風水的に悪い氣となる要因を見つけていたら、専門書を読み返し確認します。

Step 2 敷地図面に箱を描く



Step 3 アウトラインの風水を確認

- 1 氣の流れの鑑定（○ページ）
- 2 陰陽方位鑑定（○ページ）
- 3 個別運勢方位鑑定（○ページ）

見えない氣に見える化する

現地調査で得た「自然の氣」「人工的な氣」の情報を、敷地図面にカラフルに描きます。この「氣の流れの鑑定図面」と、事前調査で作成した「陰陽方位鑑定図面」と「個別運勢方位鑑定図面」を3枚を交互に眺めます。そして、現地調査でイメージした箱が、敷地図面の中にどう収まるか、様々なパターンを頭の中で描いてみます。

数パターンのイメージを描いたら、一旦考えるのをやめて手放します。眠る前に「どうしたら、最高に風水の良いプランが描けるか」と脳に問いかけ眠りにつきます。そして翌朝、目を閉じてプランをイメージします。十分な知識を蓄え、入念な調査を行っていれば、最適化されたプランが「画像」で降りてきます。

敷地図面の上に、降りてきた住宅の向きと配置のイメージを描きます。この箱に対し、もう一度氣の流れ、陰陽方位、個別運勢方位の鑑定図面を作成し、風水を確認します。風水師のアウトライン設計はここまで。この図面を元に、建築士と実現可能性をディスカッションします。



Lily's Eyes 設計はスムージーを作るように

風水スクールの講師として、受講生の悩みに寄り添っていく中で、住み心地の悪さは、住宅の構造に起因していることを、感じていました。

「家が上がり上がったからでは遅い。家づくりから風水を取れ入れて欲しい。」そんな想いで、新築設計に必要な風水術を、研究してきました。

新築の風水提案ができるようになるため、建築士の集まる会合に毎月通い、建築の知識を独学で学びました。設計会社から、講演依頼も入るようになった頃、新築の仕事が、スタートしました。

新築の風水設計のノウハウは存在せず、これまで私が、無意識に行ってきたことの結果が、「思考に思考を重ねると降りてくる」ことです。

現地調査を終えた後、大量の情報で、頭の中は大混乱です。現地調査を終える時点では、どんな設計プランを、いつ提案できるか、全くイメージがわからず、毎回戸惑いました。

今は、現地調査の翌朝、アウトラインのイメージが、画像で降りてくることを確信しています。

専門書で知識を学び、風水風景を観察し、受講生の風水改善の経験を重ね、それをベースに、各プロジェクトの、リサーチの結果を当てはめる

と、風水プランのアイデアが、湧き出てきます。

風水師は、風水の良い建物の向きと配置をイメージして、敷地に「箱」を置きます。陰と陽のバランスが取れるよう、プライベート空間とパブリック空間のゾーニングを行い、玄関や寝室などの重要な部屋と、施主様の運勢方位の関係を確認します。

風水師は、建築設計と関わる風水的なリクエストを建築士に伝え、建築的に問題がないか確認し、一緒に方向性を決めます。細かい間取りのプランニングは、建築士にお任せします。

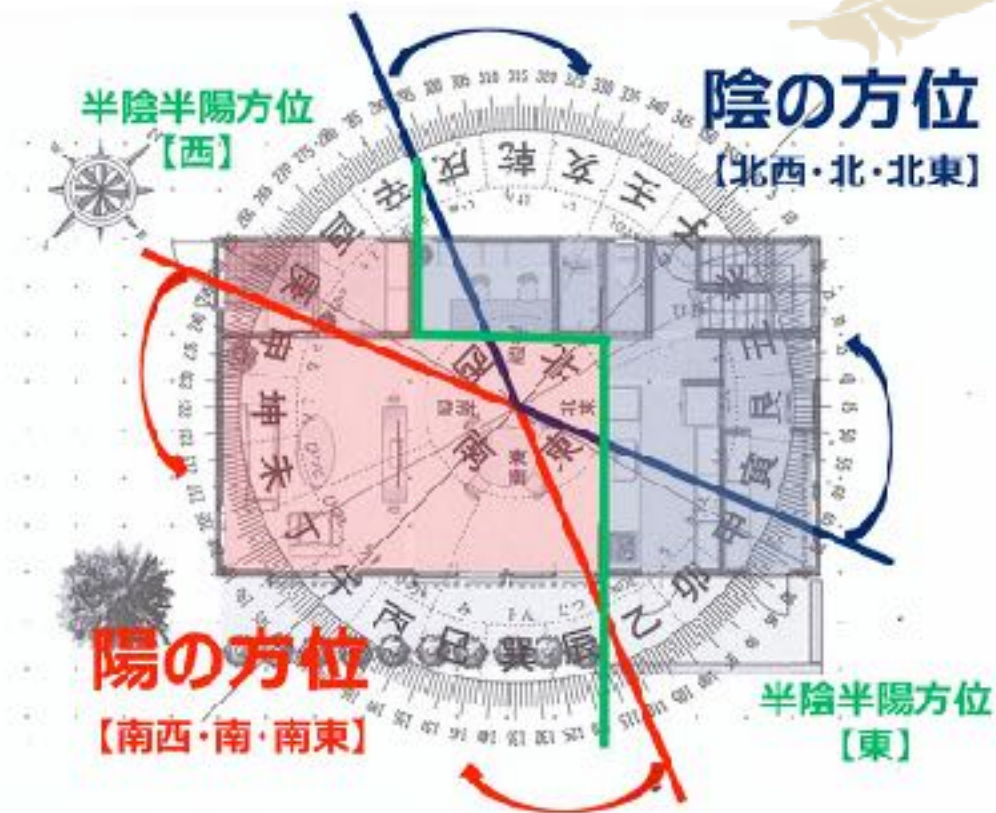
ゼロから1の風水プランを作るのは、スムージーを作るようなもの。材料をミキサーに放り込み、よくかき混ぜると、できあがります。プランの出来は、材料の質と量で決まります。

宇宙の本質

新しいアイデアは、人生から生み出されもの。中身のない箱からは何も出てこない。

Appraisalment

【参考】アウトライン設計の陰陽鑑定



きれいにゾーニングできているか

アウトライン設計時の陰陽方位鑑定は、チェックポイントは3つあります。「空間と方位の相性があるか」「ゾーニングの相性があるか」「きれいに2つにわかれているか」です。

パブリック空間は陽の方位と相性が良く、プライベート空間は陰の方位と相性が良いと考えます。しかし、住宅の間取りは、前面道路の位置に大きく影響をうけます。氣の流れを優先すると、方位と空間の相性が合わないことがあります。方位と空間の相性が合わない時こそ、陰陽論を使って氣を補う方法を見出します。アウトライン設計の段階であれば、構造レベルで氣を補うことがで

きます。例えば、パブリック空間の玄関やLDが北側の陰の方位に来た時は、窓を大きくすることなどにより、陽の氣を補うことができます。

パブリック空間は家の前面側と相性が良く、プライベート空間は家の奥側が落ち着きます。しかし、これも周辺環境の状況によっては相性が合わない時があります。相性が合わない時はプライベートがどうしたら守れるか考えます。パブリック空間とプライベート空間がきれいに2つにわかれているかもチェックして下さい。性質の違う空間が飛び石のように入り込んでいれば、改善できないか考えます。

Worksheet 陰陽方位鑑定【アウトライン設計用】

①方位と空間の相性

【パブリック空間】

- ☐ 陽の方位（南東・南・南西） 相性良し
- ☐ 陰の方位（北西・北・北東） 相性悪い
- ☐ 半陰方位（東・西） 問題なし

【プライベート空間】

- ☐ 陽の方位（南東・南・南西） 相性悪い
- ☐ 陰の方位（北西・北・北東） 相性良し
- ☐ 半陰方位（東・西） 問題なし

②プライベート空間とパブリック空間の配置の状況

- ☐ 前面にパブリック空間がきている
- ☐ 奥側にプライベート空間がきている
- ☐ 奥側にパブリック空間がきている
- ☐ 前面にプライベート空間がきている

③プライベート空間とパブリック空間のゾーニングの状況

- ☐ きれいに二つにわかれている
- ☐ 飛び石のように入り組んでいる

④陰陽バランス分析

左から順に陰陽バランスミキサーつまみを上下に動かし分析します。建築つまみでは、方位と空間の相性を見て、構造的に陰陽バランスが取れる方向性を考えつまみを動かします。建築の段階で氣を補えない部分はインテリアつまみを動かし、トータルでバランスが整うことを認識できていると安心です。

空間	感情		方位	窓	自然光	照明	構造	— 色 —	柄	— 感触 —		
パ	陽	 	南	大	明	明	陽	明	暖	華	ツル	堅
プ	陰		北	小	暗	暗	陰	暗	寒	地	ザラ	柔
暮らし			建築					インテリア デザイン性		インテリア 氣の流れ		

⑤現状分析コメント

現状の陰陽バランスはどうですか。突出した課題はありますか？

⑥改善の方向性を出す

心地よい空間にするため、改善できそうなことは何？必要な改善の方向性を考えましょう。

Diagnosis

【参考】土地の風水診断

土地の購入を決める判断基準とは

Step

1 メリットとデメリットを洗い出す

これまで解説してきたアウトライン設計の手順と、土地の風水判断の手順は同じです。違いは、土地が未契約であれば、購入を見送ることができます。希望する使い方に合ってるかどうか。建物がきれいな形で建てられるかどうかをアウトライン設計でチェックします。

ニュートラルに土地の診断ができるよう、メリットとデメリットを一つ一つ書き出し、量と質から見ていきます。100%完璧な土地などありません。問題をどう捉えるかは、施主様次第です。デメリットも受け入れた上で土地を購入できるよう、必要な情報を洗い出します。

2 施主と意見交換する

3 最終的な風水診断

Check point

土地診断のポイント

- ☐ ゴールデンゾーンがあるか、ないか
- ☐ 商用空間向きか、住宅向きか
- ☐ 交通量と建築目的の関係
- ☐ 駐車場と道路の位置関係
- ☐ 暮らしの営みの心地よさ
- ☐ 箱と土地の広さのバランス

土地は使い方で決める

土地購入は、1) 土地そのものが良いか、2) 相性が合っているかの2点から判断します。「良い土地」と「悪い土地」があります。植物が元氣よく成長する土地はエネルギーが高く、すぐに枯れてしまうようならエネルギーの低い土地です。本章で解説した「ゴールデンゾーン」がない土地もおすすめしません。心地よいポイントがなく、良い間取りのイメージが浮かばないからです。

一方、土地そのものは良くても、相性の良し悪しがあります。土地との相性は、住む人の価値観や暮らし方など、土地の使い方によって決まります。「立地条件が良い」と言っても、商用空間に適した土地に住宅は向きません。大型店舗と幹線道路は相性が良いなど「建築規模」と「交通量」にも相性があります。

土地診断は建築設計プロジェクトのスタートライン。プロジェクトが前進するのか、撤退するかが決まります。風水師の仕事の中でも最も緊張感のある仕事の一つ。アウトライン設計を丁寧に行うことが正しい判断をするための近道です。



Lily's Eyes 欠点もまるごと愛せますか？

土地の購入は、急を要するので、現地調査の翌日には、風水調査の結果をお伝えします。現地調査の当日中に、情報をまとめ、翌朝に瞑想して、具体的な「箱」のイメージを図面に描き、メリットとデメリットを、一つ一つ書き出します。

そして、「この土地では、風水的な良いプランとして、こういう向きや配置、ゾーニングが考えられます」と、風水鑑定図面も使って、施主様にご説明します。

デメリットを伝える意図は、「脅す」ことではなく、「改善ポイント」を明確すること。施主様が、デメリットに気づくことができるからです。

問題を指摘したことで、施主様がデメリットを覆すカードを、持ってきたことがあります。前面道路と駐車場の出入りに、問題があったのですが、土地を買い増しすることで、安全性が得られ、デメリットを解消しました。

また、現代建築の技術力を利用することで、解消できるのであれば、あらかじめ要望を出して、見積もりを出すこともできます。

例えば、大きい道路が近くにあり、寝室に影響が出そうなら、防音設備を導入し、音の対策をし

て、設計できれば、デメリットを解消した上で、家を建てることができます。

デメリットがわかることで、改善策の手を打ってから、土地を購入する、家を建てることできれば、住み始めてから、「こんなはずじゃなかった」というガッカリ感もなくなります。

風水の本に、「良い」「悪い」とあっても、ある問題の正解・不正解には、必ず前提条件があり、前提条件は、各ケースによって違います。

風水師は、土地が「良い」「悪い」と判断をする立場ではありません。施主様にとって、本当にメリットか、デメリットかを、一緒に考え、決定的要因を、見極めるお手伝いをします。施主様がニュートラルに土地の診断ができるよう、情報を伝えるのが風水師の仕事です。

宇宙の本質

あなたが選んだパートナーは、あなた自身。
全てを大きな愛で包み込もう。

【参考】土地選びの手順

新築

1 事前準備

- 1) 土地の形
- 2) バードビュー調査
- 3) 施主へのヒアリング
- 4) 土地の方位鑑定図面の作成

2 現地調査

2-1 自然の気

- 1) 光
- 2) 風
- 3) 水

2-2 人工的な気

- 1) 周辺の人為的な環境
- 2) 日当たり
- 3) 視線や風の抜け
- 4) 隣家の開口部の位置

2-3 ゴールデンゾーンを

- 1) 敷地を歩き回る
- 2) 光の抜けるポイントを探す
- 3) 光と風を受ける向き
- 4) 間取りイメージがわく

2-4 箱のイメージ

- 1) ゴールデンゾーン
- 2) 四神相応
- 3) 陰陽方位
- 4) 個別の運勢方位

2-5 周辺散策調査

- 1) 家の向き
- 2) 家のデザイン
- 3) 築年数
- 4) なぜ、このような街になったのかを考える

3 箱の具体化

- 1) 情報をまとめる
 - a.基礎理論のインストール
 - b.事前準備
 - c.現地調査
- 2) 文献調査
- 3) 瞑想でイメージをおろす
- 4) 箱を敷地図面に置く

4 土地の風水診断

- 1) メリットとデメリットを洗い出す
- 2) 施主と意見交換する
- 3) 最終的な風水診断

既存住宅

1 事前準備

- 1) 間取りの致命傷
- 2) 土地の形
- 3) 建物の形
- 4) バードビュー調査
- 5) 施主へのヒアリング
- 6) 土地の方位鑑定図面の作成

2 現地調査

2-1 自然の気

- 1) 光
- 2) 風
- 3) 水

2-2 人工的な気

- 1) 周辺の人為的な環境
- 2) 日当たり
- 3) 視線や風の抜け
- 4) 隣家の開口部の位置

2-3 ゴールデンゾーン

- 1) 敷地・建物内を歩き回る
- 2) 光の抜けるポイントを探す
- 3) 光と風を受ける向き
- 4) 間取りイメージがわく

2-4 建物の構造

- 1) 柱・PS
- 2) 天井（梁・斜め天井）
- 3) 開口部（窓・ドア）
- 4) 壁・配管・造り付け収納

2-5 周辺散策調査

- 1) 家の向き
- 2) 家のデザイン
- 3) 築年数
- 4) なぜ、このような街になったのかを考える

3 箱の具体化

※フルリフォームの場合

- 1) 情報をまとめる
 - a.基礎理論のインストール
 - b.事前準備
 - c.現地調査
- 2) 文献調査
- 3) 瞑想でイメージをおろす
- 4) 箱を敷地図面に置く

4 土地の風水診断

- 1) メリットとデメリットを洗い出す
- 2) 施主と意見交換する
- 3) 最終的な風水診断

風水師が大切にしている古典と文獻

ゼロから1を生み出す原理原則

土地をみる時に、施主様や建築士が知りたいのは、「土地を風水診断する判断基準」や、「ゼロから1の風水設計プランを描く方法」でしょう。

実をいうと、この本を執筆するまで、この部分は、私にとってもブラックボックスでした。「なぜ自分にできるのかわからない。でも、できてしまう」という職人特有の感覚値でやってきたため、一言で伝えることなどできませんでした。

自分が無意識レベルで行ってきたことを、一つひとつ洗い出して、段階的ステップに落とし込む作業を通し、ようやく答えを出すことができました。その答えとは……

ノウハウの前に「考え方」あり

もしあるとすれば、風水に限らず、どの世界にも共通する「原理原則」です。それは、1) 基本的な哲学と理論をインストールする。2) 実践して経験を積む。3) 無意識レベルでできるまで訓練する。この3ステップです。

1) 基本のインストールは、「考え方」と「やり方」の両方です。「考え方」が方向性を示し、その先に「やり方」があります。

風水の入口として、ノウハウ本から入る方も多いと思いますが、これだけでは、風水術は身につきません。考え方が、抜け落ちているからです。

土地の診断や、間取り設計など、高度なスキルを身につけたい方は、風水の古典(※)を読むことが必須です。「山」と「水」をみることから、風水はスタートします。

2) 実践して経験を積む方法は、風水風景を歩く、自宅風水を実践する、風水を人に教える、他人の風水を改善することです。

3) 基本のインストールと、実践を繰り返し、風水を自分の中で噛み砕き、自然に身体が動くま

でやり続けることで、風水術が身につきます。

そして、知識と技術を身につけた後に、STEP4で解説した、「事前準備」「現地調査」「文献調査」をしっかりとすれば、適切な土地の判断や、風水設計プランを描くことができます。

これまで、「この土地を買ってもいいでしょうか」「この土地に家を建ててもいいでしょうか」「風水設計プランはどうしたら描けますか」と、多くの方から、相談を受けてきました。

しかし、残念ながら、知識と技術を身に着けるための「原理原則」を理解せず、「事前準備」「現地調査」「文献調査」をすっ飛ばして、土地の風水診断を行うことや、ゼロから1の風水設計プランを描くことはできません。

風水の良い家を手に入れたい、風水の良い設計プランを描きたいと思う方は、STEP1からSTEP6までを丁寧に学び、実践していきましょう。

氣の流れを生み出すもの

STEP4で解説した「土地の風水診断」と「ゼロから1の風水設計プランを描く方法」は、風水術の中でも、最も難易度の高い技術です。

ここで特に必要となるのは、基本レベルでは、風水の古典にある「山」と「水」の見方。実践レベルでは、「風水風景をどれだけ歩いたか」、「住空間の風水分析&風水改善」の経験値です。

ここでは、「土地の診断」と「箱の置き方」の理解を深めることができるよう、「山と水の見方」を、お話します。

「氣の流れ」は、様々な形から生じます。「形」の基本となるのが「山」と「水」。王城の風水や、集落の風水では、「山」「川」「海」など、自然そのものを見れば良いですが、土地の診断をする時は、その役割を、別のものに置き換えます。

敷地を抱き護る存在「山」

風水では、自然界のものを象徴的に受け止め、万物に当てはめます。「山」の役割とは、「敷地を抱き護る存在」です。

土地の風水をみる時は、ごく稀に本物の山が住宅の背中に来ることもありますが、ほとんどの場合、周辺の建物が、風水的な「山」になります。

建物の形によって光や風の流れが、影響を受けます。背後が山でサポートされているか。前方は開けて明堂があるか。左右の山に護られているか。四神相応の考え方で、周辺の建物をみます。

土地はその土地のある地域全体と、入子構造になっています。現地調査で周辺散策をする理由は、その地域での最適な向きを知るためです。

沖縄の集落であれば、周辺を散策すると、周辺の山と海の配置から、集落全体がどちらを背中にどちらを向いているか見えてきます。集落と同じ向きに合わせるのが、理想的です。「その土地に、箱をどのように置くか」の判断基準は、山が大きな役割を果たしています。

また、山にも「良い形」と「悪い形」があります。例えば、鋭く尖った形は悪い「火」の象徴です。何かしら先の尖った形が目にある場合や、尖った角が向いている方向で火事が起きやすいと考えられています。近隣の建物に鋭く尖った形がないかどうかを、風水師は確認しています。

安全と経済を担う「水」

土地の風水をみる時の「水」は、さまざまなものがあります。自然の水以外で、最も存在の大きい水は、道路です。道路は、自然界で言うところの「川」です。

参考文献

- ・盧恆立(レイモンド・ロー)・山道昇一(監修)・島内大乾(翻訳) (2008)・完全定本風水大全・河出書房新社。
- ・呉佳錡・山道昇一 (2009)・完全定本【実践】地理風水大全・河出書房新社。

車線が複数有り、高速の車が大量に走る幹線道路は、水量が多くて勢いよく流れる一級河川に例えることができます。人々の暮らしと大きく関わり、産業を発展させる重要な役割という点でも、共通しています。

その土地に対して、川がどのように流れてくるかで、吉凶のパターンがいくつもあります。有名な悪い氣の例に、「路冲殺(ろちゅうさつ)」があります。

「T字殺」という別名があり、T字の下から、上の横棒に向かって、水が直進してくるような形は、凶相の土地です。

ここで何が起きるかということ、道路を直進して向かってきた車が、ハンドルを切り損ねて突っ込んでくるという事故が、各地で起きています。

風水文化の根付いた沖縄では、「石敢當(いしがんとう)」という魔除の石が、道路がぶつかる正面の外壁に取り付けられてるのを、いたるところで見ることができます。

風水の専門書と友達になる

「山」と「水」は、様々な吉凶の種類があり、理解するのも難しいですが、あらかじめ文献を読みこんだ状態で、現地調査へ向かいます。

風水理論に該当する「山」と「水」を見つけたら、調査から戻った後に、文献で調べ直します。どう判断していいか悩み、数冊の文献を、何度も読み返して、考えることもあります。

私が愛用している参考文献の一部を、最後に、ご紹介します。風水の専門書は、一回読んだだけでは、とても理解できません。わからないことがある度に、何度も何度も読み返し、お友達になって、辞書のように使い込んでいきます。

- ・リリアン・トゥー・越智由香(翻訳) (2004)・風水大百科事典・産調出版。
- ・山道昇一 (2010)・風水パワースポット紀行・メディア総合研究所。
- ・山道昇一 (2012)・風水住宅図鑑―風水で住宅をみるための基礎知識・ナチュラルスピリット。